

■リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻 作業療法学領域

田中 寛之 准教授

1. 主な研究内容について

私たちの研究グループでは認知症、高次脳機能障害、統合失調症を対象として、評価・介入技法、運転支援方法の開発について臨床研究を行ってきました。主に1)を中心として次の研究課題にグループで取り組んでいます。

- 1) 認知症の認知機能障害、日常生活活動、行動心理学的症候、QoL、生活リズムの評価・介入について
- 2) 脳血管障害や頭部外傷などの器質的損傷による高次脳機能障害の評価について
- 3) 就労支援のための精神疾患を持つ方に対する生活リズム評価・介入について
- 4) 障がい者・高齢者への新しい運転支援に関する評価方法の開発

2. 主な共同研究先

株式会社介護サブリ、ソフトバンク株式会社、大阪市城陽地域包括支援センター、大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、鹿児島大学、森ノ宮医療大学、奈良学園大学、さわ病院、伊丹せいふう病院、友誼会総合病院、京都民医連あすかい病院、協和会病院、岸和田リハビリテーション病院、東香里病院、大阪府急性期・総合医療センター、西大和リハビリテーション病院、NPO 法人日本学び協会 ワンモア、鶴飼リハビリテーション病院、Wellbeing 共創センターなど

3. 今まで指導した学位論文名

〈修士論文〉

2020 年度：半側無視の気づきに関する検討

2022 年度：自動車運転支援における停止車両評価の臨床的有用性の検討

2022 年度：認知症者における行動心理症状と認知機能、日常生活活動との関連性の検討

2023 年度：認知症者における作業療法中の態度・行動と焦燥性興奮の関係性

2024 年度：回復期リハビリテーション病棟における認知症患者の環境要因と認知機能、日常生活活動、行動心理症状との関連性の検討

4. 主な論文

- Kagino S, Miyazaki N, Tanaka H. (2025): A study on brake-accelerator reaction times in elderly patients after artificial knee joint and hip joint replacement surgery. Traffic Injury Prevention. in press.
- Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D, et al. (2024) : Factors of clinical importance for the performance of the few remaining abilities of ADLs in Severe Dementia: Analysis of toileting, feeding, and physical ambulation assessed using the Physical Self-Maintenance Scale, International Journal of Gerontology, 18, 321-235.
- Tanaka H, Umeda R, Nagata Y, et al. (2022): Clinical Utility of an Assessment Scale for Engagement in Activities for Patients with Moderate to Severe Dementia; Additional Analysis, Psychogeriatrics, 22(4), 433-444.
- Tanaka H, Umeda R, Shoumura Y, et al. (2021): Development of as Assessment Scale for Engagement in Activites for patients with Moderate to Severe Dementia. Psychogeriatrics, 21(3): 368-377.
- Leung S, Tanaka H, Kwok T. (2021) : Developmemt of Chinese Version of Quality of Life in Late-Stage Dementia and Cognitive test for Severe Dementia. Dementia and Geriatric Cognitive Disorder Extra, 10(3): 172-181.
- Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D, et al. (2020) : Possibility of Cognitive improvement in severe dementia: A Case Series assessed by Cognitive Test for Severe Dementia. International Journal of Gelontology, 15(2): 174-176.
- Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D et al. (2019) : Clinical factors associated with activites of daily living and their decline in patients with severe dementia. Doi: 10.1111/p, 20(3), 327-336. など, 他多数

5. 現在の指導している大学院生数

M1 : 3 名、M2 : 2 名、D1 : 2 名、D2 : 1 名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

当ゼミでは国内だけでなく国際的水準に合わせた研究を進めます。研究グループに所属する大学院生・研究員の皆さまは、ご自身の臨床現場でデータを収集されています。対象者（患者・利用者）に還元できる研究をしたいと考えられている「熱心で高い志のある方」「自発的・自主的に行動できる方」「粘り強く研究を続けることができる方」を募集します。経験年数は問いませんが、礼節を重んじて他者に配慮ができ、我々とともに成長できる方を受け入れたいと考えています。ゼミは、認知症、高齢者、高次脳機能障害、運転支援等に関する英語文献の抄読会を中心に、その他に研究計画、学会・論文発表前には個別ゼミ、少人数ゼミ、適宜オンライン・オフラインなど目的に応じた形で行っています。ゼミの見学等についても可能ですので、気軽に連絡をください。